

地球環境問題の解決への貢献

取り組みの概要

当社は1991年の環境憲章制定をはじめ、社会の公器として、地球環境問題に長く向き合ってきました。気候変動問題に対しては、2017年に「環境ビジョン2050」を策定し、2021年5月には、そこに至るマイルストーンとして2030年に全事業会社でのCO₂排出量ゼロ化を新たにコミットしました。商品本来のお役立ちとともに、環境の面でもトップランナーとなり、気候変動問題の解決に大きな貢献を果たすリーディングカンパニーとなることを目指します。そして、このチャレンジをパナソニックの事業競争力の強化にもつなげていきます。

環境ビジョン2050 (2017年6月公表)

「より良い暮らし」と「持続可能な地球環境」の両立に向けて、クリーンなエネルギーでより良く快適に暮らしを創る社会を目指し、使うエネルギーの削減と、それを超えるエネルギーの創出・活用を推進
「使うエネルギー」 < 「創るエネルギー」

使うエネルギー

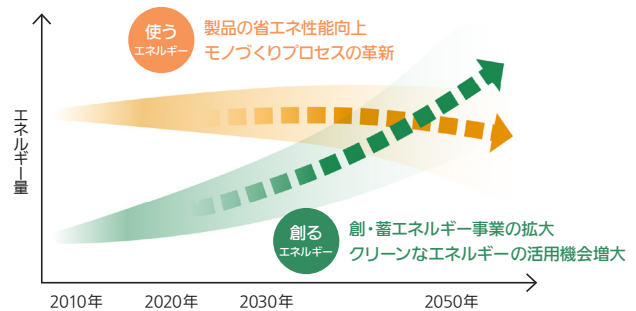
事業活動、およびその活動で生み出した製品・サービスが使用するエネルギー

創るエネルギー

事業活動、およびその活動で生み出した製品・サービスが創出・活用するクリーンなエネルギー(太陽光発電、燃料電池*、車載電池*、定置用蓄電池*等)

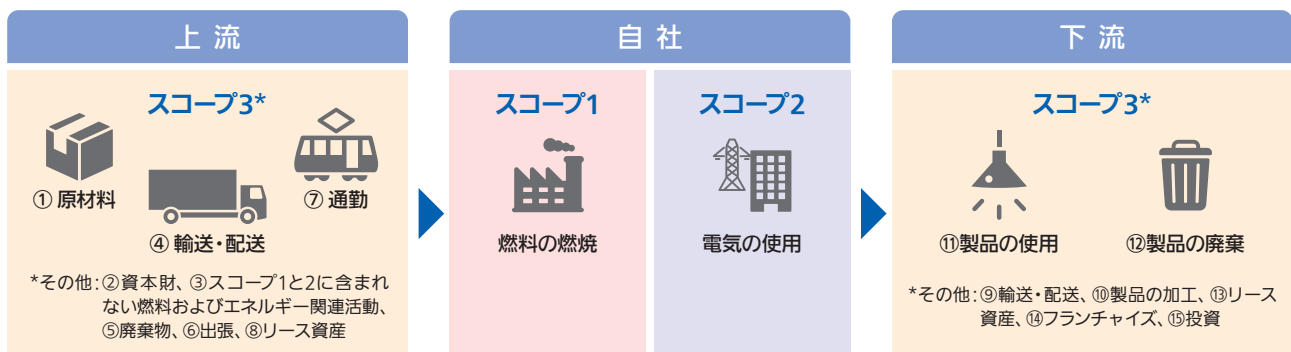
*活用する水素や蓄える電力は、将来的にCO₂排出ゼロのクリーンなエネルギーになると想定

環境ビジョン達成のイメージ



環境ビジョン2050は、パナソニックが関わるすべての事業活動、すなわちGHGプロトコル(温室効果ガス排出量の算定・報告の基準)の区分に基づくスコープ1~3を対象としています。電力供給側の電源構成等により変化する「CO₂排出量」ではなく、自らの事業と紐づけすることができる「エネルギー量」を指標としたゴールを設定しています。

環境ビジョン2050の対象範囲(スコープ1~3)



スコープ1: 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料燃焼)

スコープ2: 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

スコープ3: スコープ1と2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)

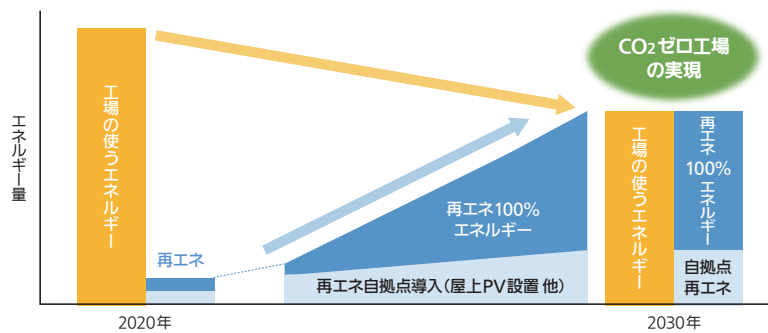
(出所) 環境省資料をもとに当社作成。* 図中の①~⑮は、GHGプロトコルが定めるスコープ3のカテゴリ分類を表す。

2030年環境目標（2021年5月公表）

2030年：全事業会社でのCO₂排出量ゼロ化を実現

環境ビジョン2050に向けたマイルストーンとして、まずは自らが直接コントロール可能なスコープ1、2(主に工場におけるエネルギー使用によるCO₂排出量)を対象としたカーボンニュートラルを2030年に達成することをコミットします。各事業会社において、省エネ取り組みを加速しエネルギー使用量を削減するとともに、再生可能エネルギーの活用や調達を拡大を進め、CO₂排出量ゼロ化を実現します。

グローバルの各地域で「CO₂ゼロの工場づくり」に取り組んでおり、現在既に4拠点6工場でCO₂ゼロを実現しています。加えて、日本の燃料電池工場(滋賀県草津市)において、水素燃料電池に太陽光、蓄電池を組み合わせ、製造工程の使用電力すべてを自ら賄う「RE100化」を推進しています(2022年4月より本格稼働)。これらをモデル工場とし、ノウハウを横展開し、CO₂ゼロ工場を拡大していきます。

CO₂ゼロ工場実現に向けた取り組み

主要施策

① 省エネ

稼働ロス削減

エネルギー自動制御

② 再生エネ活用

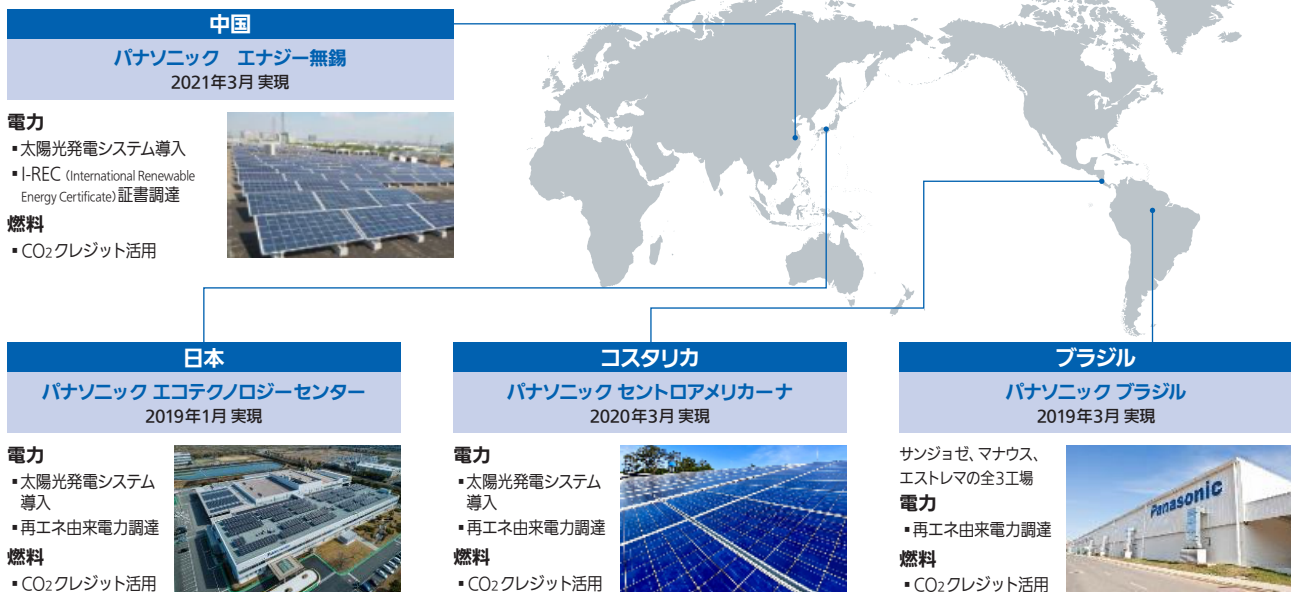
創蓄連携システム

水素燃料電池ソリューション

③ 再生エネ調達

再生エネ100%電力調達

環境価値調達

グローバルのCO₂ゼロ工場

*2021年6月に株式譲渡が完了した欧州民生用電池工場は含まず。

TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)、SBT(科学と整合した目標設定)に関する情報は、以下を参照ください。

<https://www.panasonic.com/jp/corporate/sustainability/eco/governance/tcf.html>